

2021年1月29日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

WebRTC – 通信環境を一変したウェブ技術が W3C と IETF 双方で標準規格に – WebRTC はリッチでインタラクティブなライブの音声や映像通信を可能にし、 グローバルな相互接続を促進します

慶應義塾大学 SFC 研究所が世界の研究機関とともに運営している W3C (World Wide Web Consortium) は、The Internet Engineering Task Force (IETF) と協働で開発した「Web Real-Time Communications (WebRTC)」が正式に標準勧告化に到達したことを発表しました。

すでに世界中で使用されている本技術は、新型コロナウイルスが分断する人々をつなぐために普及しているオンラインツールの根幹技術であり、デジタル社会のコミュニケーションを刷新するユニバーサルなものです。

あらゆるデバイスや場所から

[WebRTC \(https://www.w3.org/TR/webrtc/\)](https://www.w3.org/TR/webrtc/) はウェブ上の音声および映像のリアルタイム通信をダイレクトにやりとりできるようにする技術です。本技術のフレームワークはウェブ、そしてアプリ開発者がビデオチャットの要素をシームレスに追加できるように設計されています。これにはウェブブラウザや各種デバイス、他プラットフォームで安全な音声と映像の通信システムが組み込まれており、それによりプラグインのインストールや個別のアプリケーションをダウンロードする必要がありません。これもオープンウェブの大きな利点の一つに挙げられます。

人々をつなぐ活用の数々

2020 年は外出や物理的な接触の制限をせざるを得ない年でした。そういった中、すでに各種オンラインサービスや製品で使用されていた本技術は、その重要性を改めて表出させました。企業では会議やトレーニング、面接、または共に食事をとる時にも交流の場として WebRTC を利用しています。学校や大学では、オンラインのプラットフォームの活用を進めています。クラウドゲームとソーシャルネットワークでは、ライブストリーミングやインタラクティブな配信を行なっています。スポーツは WebRTC を通じてスタジアム内のエクスペリエンスを再現しようとしています。家庭やコミュニティでも各種アプリを通して日常的に対話をしています。すでに WebRTC は数々のサービスや製品を通して人々の生活に根付いているのです。

W3C の目はその先へ

WebRTC は設計当時のデザインを改良しながら拡張を続けています。この度の本勧告はタイムスタンプであり、同技術開発グループはすでに将来設計の作業に着手しています。W3C は世界中の人々が利用するあらゆるデバイスと環境で、デジタル社会のインフラストラクチャとして必要とされる技術の開発を進めてゆきます。

W3C (World Wide Web Consortium) について

W3C (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム) の使命は、世界中の人々にとってウェブがオープンでアクセス可能で相互運用可能であることを保証するための技術標準とガイドラインを作成することによって、ウェブを最大限に活用することです。W3C は、HTML5、CSS、Open Web Platform などの広く知られた仕様を開発し、セキュリティとプライバシーに取り組んでいます。これらはすべてオープンで作成され、無料で独自の W3C 特許ポリシーの下で提供されます。W3C は、オンラインビデオをキャプションと字幕でよりアクセシブルにするための作品として、2016 年のエミー賞を受賞しました。

「One Web」に対する W3C のビジョンには、[400](#) を超える会員組織と数 10 の業界部門を代表する何千人もの真摯な技術者が集まっています。W3C は、米国の [MIT コンピュータ科学・人工知能研究所 \(MIT CSAIL\)](#)、フランスに本部を置く [欧州情報数学研究会 \(ERCIM\)](#)、日本の [慶應義塾大学](#)、中国の [北京航空航天大学](#) が共同で運営しています。詳細については <https://www.w3.org/> を参照してください。

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

【本件についてのお問合せ先】

W3C (World Wide Web Consortium)

U R L : <https://www.w3.org/Consortium/contact-keio-ja.html>

E-mail: keio-contact@w3.org

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp

T E L :0466-49-3436

F A X :0466-49-3594